

第11回 影響を与える日本の技術

今年4月に中国人を対象に国内5都市の高齢者施設を視察するツアーを開催しました。参加者は今後中国でシニア事業の展開を考えており、急加速する中国の高齢化に備えて医療介護先進国である日本で学ぼうという方々です。

実は参加者の本職は証券アナリスト、メディア、炭鉱、人材派遣、IT企業等の経営者クラスばかりでした。介護保険制度がない中国において、医療介護、施設設備のインフラが整った「日本式を学びたい」と、施設見学時にも活発な質疑が飛び交いました。また、今後の中国における急速な高齢化から予測されるビジネスチャンスも冷静に捉えて、投資スキーム、運営ノウハウ、収益性についての具体的なアドバイスを求められました。

タワールホテルと、高齢者向け住宅のリボーン尼崎式番館を見学していたきました。

多くの質問の中でこんな驚きの質問も飛び込んできました。

「なぜ、みんな座っているの？なぜ、会話をしないの？」

中国ではお年寄りは、自分の体は自分で守るとの考えが基本にあります。「介護保険がない、医療費が高い、医師へのワイロ化、薬の信頼性」など健康にあ



▶中国から参加したメンバー

中国企業が視察 日本式介護へ関心高く

ゲストハウス社長 松山英樹



中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール  
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

◆ 今月27から31日にコンサルティング会社ねこの手の協力をいただいて、「日本シニア産業見学ツアー」を開催します。上海シニア事業関連業者20名が参加予定で、リハビリ特化型サービス運営する社会福祉法人アルペン会、セコムフオート、ケアプロデュースの協力をいただいて施設見学をし、高齢者住宅新聞社主催の高齢者住宅フェア見

らゆる不安材料が付きまといます。毎朝公園では太極拳、散歩、公園内の健康器具を使った運動など、コミュニケーションが得意な民族性から集団で健康意識を高め合っています。

そのような環境が当たり前の中国人にとって、日本人特有の「あまり他人を干渉しない」様子に、中国人は疑問を感じたのでしよう。今後、サービス提供する我々にとっても、機能維持・改善において、利用者同士のコミュニケーションは課題になるでしょう。

中国では製造業の進出が減退してきた今、日本企業の「中国シニア産業」へのビジネス進出への期待は益々高まっていくでしょう。

学と盛りだくさんの内容です。上海からの参加者はシニア事業の提携先や設備機器購入、医療介護技術の提携、人材教育などあらゆる日本の技術を取り入れようと意欲旺盛です。当社も高齢者住宅フェアに出展しますので、中国進出にご興味がある企業は是非お立ち寄りください。